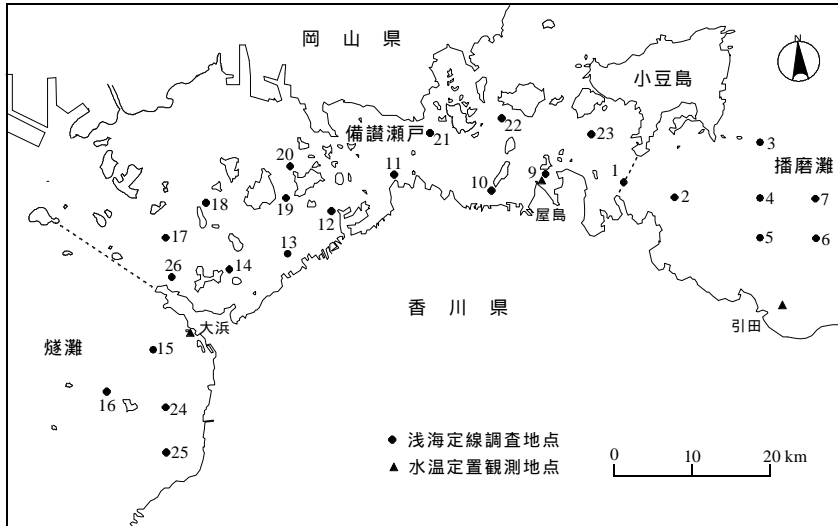


香川県漁海況速報 平成19年 9月 (H19-6号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成19年9月4日 (播磨灘) 5日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「平年並みからかなり高め」、塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「平年並みからやや高め」、溶存酸素は「やや低めからかなり高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	27.4	26.9	25.5	31.9	32.0	32.0	7.6	4.12	3.77
	平年値	26.7	26.1	25.1	31.7	31.7	31.9	7.9	4.44	2.99
	平年偏差	0.7	0.8	0.5	0.3	0.3	0.1	-0.3	-0.32	0.78
	状況	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	かなり高め
備讃瀬戸	14地点平均値	27.8	27.5	27.3	32.4	32.4	32.4	4.7	3.96	3.78
	平年値	26.8	26.5	26.4	31.6	31.7	31.7	4.3	4.23	4.00
	平年偏差	1.0	1.0	0.9	0.8	0.6	0.6	0.4	-0.27	-0.22
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	やや低め	やや低め
燧灘	4地点平均値	29.3	27.1	24.9	32.5	32.6	32.6	13.0	4.11	3.58
	平年値	27.6	26.2	24.7	31.7	32.0	32.2	10.3	4.54	2.69
	平年偏差	1.8	1.0	0.2	0.9	0.5	0.4	2.7	-0.43	0.89
	状況	かなり高め	やや高め	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	やや高め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

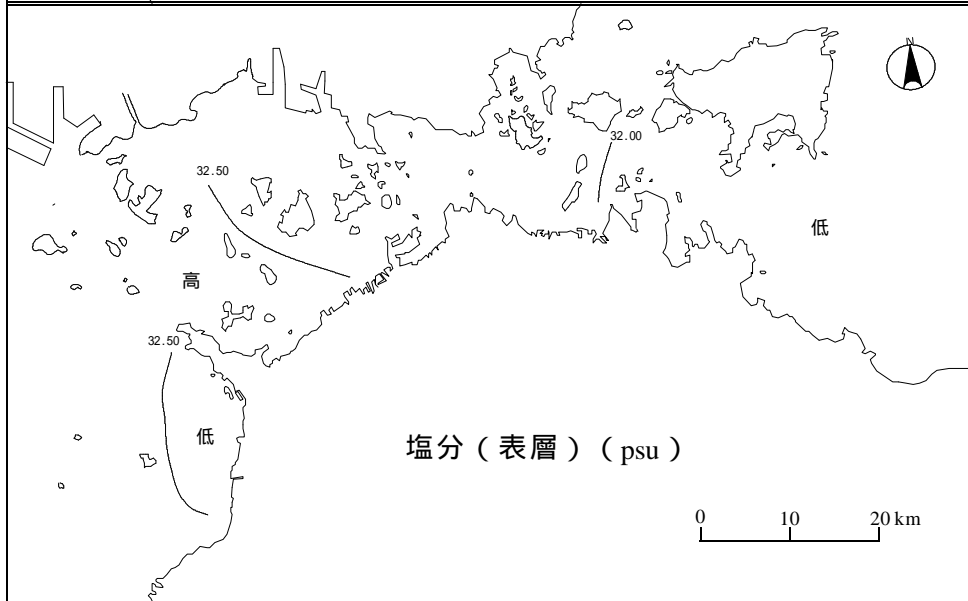
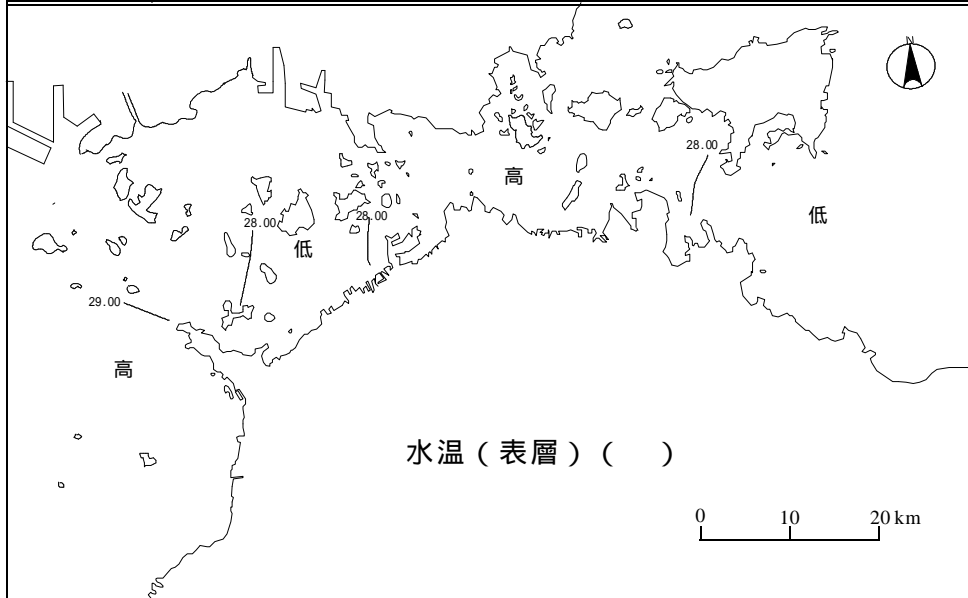
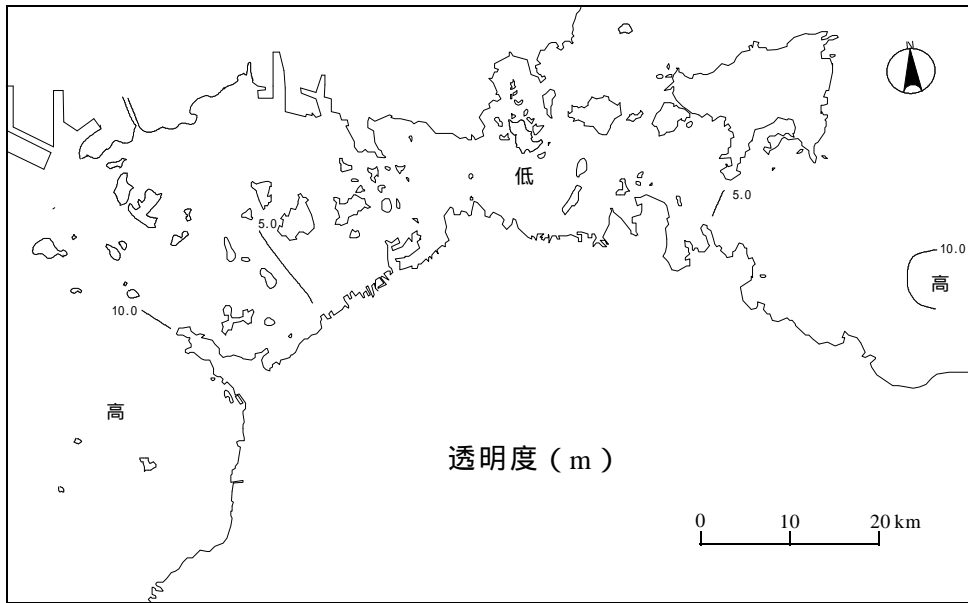
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



3) 定置観測(水温)

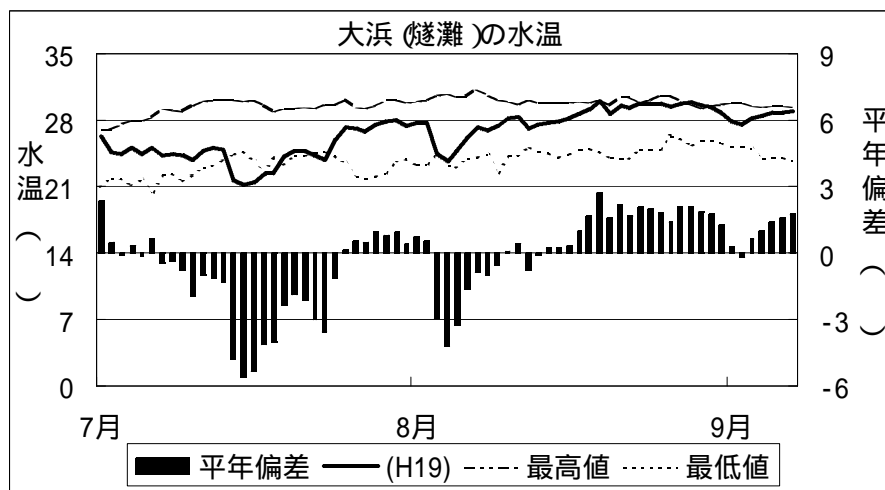
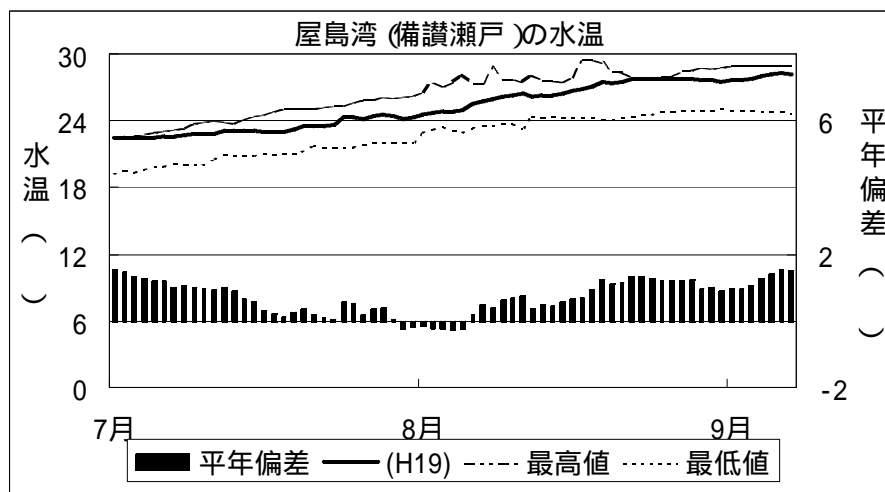
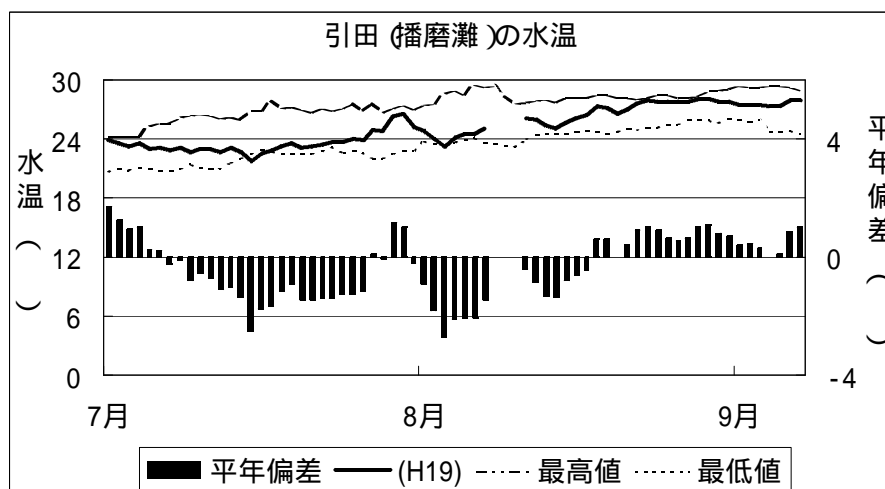
播磨灘(引田): 8月前半かなり低め、後半平年並みからかなり高め、9月上旬平年並みからやや高めで推移している。

備讃瀬戸(屋島): 8月上旬平年並み、中旬やや高め、下旬から9月上旬かなり高めで推移している。

燧灘(大浜): 8月前半かなり低めから平年並み、後半から9月上旬やや高めからかなり高めで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成18(2006)年

屋島: 昭和50(1975)~平成18(2006)年



4) 赤潮 (8月17日～9月10日)

播磨灘：8月22日東かがわ市地先でノクチルカによる着色、9月上旬に東かがわ市引田地先でコクロディニウム ポリクリコイデスによる着色が確認された。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成19年9月4日 (播磨灘)、5日 (備讃瀬戸、燧灘)

出現量

個 (尾) / 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.00	7.25
備讃瀬戸平均	1.20	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	3.40	3.87
燧灘平均	4.86	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	1.29	8.71
総平均	1.77	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	2.80	5.90

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.7%	0.0%	-	-
備讃瀬戸平均	150.0%	17.9%	-	-
燧灘平均	34.4%	10.3%	-	-
総平均	17.8%	5.2%	-	-

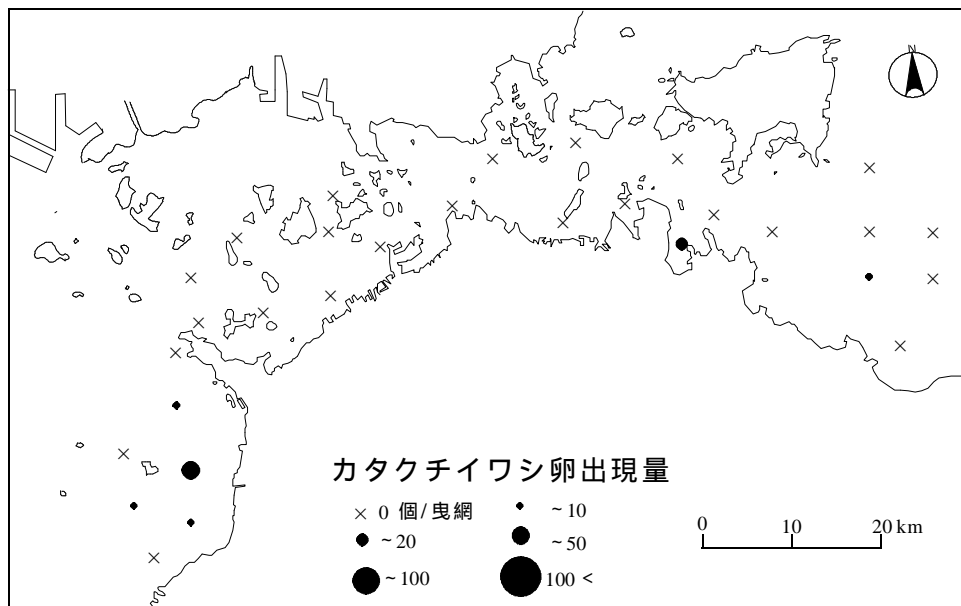
- : 平年値が 00 の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55 (1980) ～平成18 (2006) 年度

マイワシ：平成5 (1993) ～平成18 (2006) 年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

8月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網では、主に小型エビ類、イボダイ、ハモ等が漁獲されている。桁網では、主にタチウオ、マアジ(小)、スズキが漁獲されている。大型定置網では、主にマナガツオ、マルアジ、タチウオ、イボダイが漁獲されているが、全般的に低調である。東讃のシラス船曳網の8月の漁獲量は前月からの好調を維持し、前年の約2倍、平年(89-04)の約5倍で、近年では最も多かった。
備 讃 瀬 戸	底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、アナゴ、マダイ、小型エビ類、マダコ、イイダコが漁獲されているが、メイタガレイが例年に比べて少ない。マナガツオ流し刺網は9月に入っても漁獲が続いており、8月の漁獲量は前年を上回っている。
燧 灘	底びき網では主にメイタガレイ、アカカマス、マルアジ、タチウオ、小型エビ類、トリガイ、ガザミを漁獲しているが、全般的に低調である。 イワシ機船船びき網の8月までの漁獲量は、ほぼ前年並みの約1,500トであった。8月下旬から中羽主体の漁獲が続いている。